

知事は公約を守れ

県民に信を問え

県議会だけで決めるな！



柏崎刈羽原発再稼働の是非を考える新潟県民ネットワーク緊急行動

花角英世新潟県知事が11月21日(金)柏崎刈羽原発再稼働を「容認」し、県議会に諮ることを表明したことを受け、新潟県平和運動センターを中心に「人間の鎖」行動が11月25日(火)に取り組まれました。花角知事は、「この間「脱原発の社会を目指し、柏崎刈羽原発再稼働については県民の信を問う」ことを公約に掲げていました。多くの県民は依然として再稼働への不安を表明しており、このことは知事自身の公約に反し、県民を裏切るものです。当日は、県内外各地から1,200名(全港湾20名参加)が参加し、新潟県庁周囲を「人間の鎖」で囲い、「シュプレヒコール」を行い、改めて「柏崎刈羽原発再稼働反対」の声をあげました。12月県議会が大きな山場となりますが、全港湾新潟支部としても「脱原発・原発再稼働反対」に向け全力で取り組んでいきます。

全港湾新潟支部 書記長 那須野 智広

ブレイク
タイム
0076

第0076号 2025年12月2日発行
全日本港湾労働組合 発行日: 随時

クイーンズランド支部 神戸港湾技能研修センター視察・神戸支部交流

2025年11月11日のMUAとの交流では、とても有意義な体験がでた。MUA組合員は、髭モジヤのおじさん集団をイメージしていましたが、24歳～34歳の若いナイスガイ集団だった。MUAは、神戸ポートアイランドにある「港湾技能研修センター」への視察に神戸へ入った。センターと港湾の資格免許、研修支援などの説明の後、実際の研修現場を見ながら、研修方法や設備の質問をしていたのが印象的だった。鈴木中央委員長が、港湾の時代背景を交え、笑いを取りながら説明していく勉強になった。意見交換では、オーストラリアの港湾には資格制度はなく、日本の安全重視の資格制度に関心を寄せていて、安全への思いは同じだと感じた。懇親会では、楽しくお酒を呑み交わした。年収の話題になり、MUAは「残業なしで1,600万」だと答え、「今の条件は40年闘いの積み重ねで手にしてきたものだ」と胸を張りました。『闘いの上に賃金や労働条件が約束されている』と、次世代に労働組合の歴史や大切さを伝えていくと話している姿に、国は違っても労働組合の同じ志に奮起と国際連帯の大切さを感じた。

神戸支部副委員長 藪田 寛也

LET'S FIGHT TOGETHER

